

I . 平成22年度中間決算の概要

損益の状況

- 貸出金・有価証券の増加に伴う資金利益の増加により、**コア業務純益は増益**
- **信用コストの減少**により**経常利益は大幅増益**となり、**中間純利益も倍増**

平成22年度中間決算(単体)

(単位: 百万円)

	平成21年度 中間期	平成22年度 中間期	前年同期比	増減率
コア業務粗利益(注1)	40,323	42,110	+ 1,787	+ 4.4%
資金利益	37,480	38,575	+ 1,095	
役務取引等利益	2,375	2,626	+ 251	
うち預り資産収益	704	1,131	+ 427	
その他業務利益(除: 国債等債券関係損益)	467	908	+ 441	
経費(△)	24,041	24,067	+ 26	+ 0.1%
人件費	13,020	13,054	+ 34	
物件費	9,570	9,652	+ 82	
税金	1,450	1,359	△ 91	
コア業務純益(注2)	16,282	18,042	+ 1,760	+ 10.8%
信用コスト(△)	8,315	1,881	△ 6,434	
一般貸倒引当金繰入額	△ 313	△ 4,034	△ 3,721	
不良債権処理額	8,628	5,916	△ 2,712	
有価証券関係損益	△ 1,498	△ 1,022	+ 476	
国債等債券関係損益	△ 451	△ 226	+ 225	
株式等関係損益	△ 1,046	△ 796	+ 250	
その他の臨時損益	△ 514	△ 391	+ 123	
経常利益	5,953	14,747	+ 8,794	+ 147.7%
特別損益	171	△ 627	△ 798	
税引前中間純利益	6,125	14,120	+ 7,995	
中間純利益	4,064	8,793	+ 4,729	+ 116.4%
経常収益	49,739	50,447	+ 708	+ 1.4%
業務純益	16,143	21,850	+ 5,707	+ 35.4%

(注1) コア業務粗利益・・・国債等債券関係損益を除く「業務粗利益」

(注2) コア業務純益・・・コア業務粗利益 - 経費

主な増減要因等 (前年同期比)

コア業務粗利益・・・前年同期比+1,787百万円

- 貸出金および有価証券の運用増強による資金利益の増加
- 預り資産収益の回復による役務取引等利益の増加
- 外為売買益等の増加によるその他業務利益の増加

経費・・・前年同期比+26百万円 (ほぼ横這い)

コア業務粗利益の増加に伴いコア業務純益増加
前年同期比+1,760百万円

信用コスト・・・前年同期比△6,434百万円

一般貸倒引当金繰入額 (前年同期比△3,721百万円)

- 主に引当率の低下により繰入減少

不良債権処理額 (前年同期比△2,712百万円)

- 倒産・ランクダウンの減少により不良債権処理額減少

有価証券関係損益・・・前年同期比+476百万円

国債等債券関係損益 (前年同期比+225百万円)

株式等関係損益 (前年同期比+250百万円)

- 債券売却益の計上、株式等償却の減少により有価証券関係損益が増加

信用コストの減少により経常利益は大幅増益
前年同期比+8,794百万円

特別損益・・・前年同期比△798百万円

- 主に固定資産減損の増加により特別損益減少

中間純利益は倍増
前年同期比+4,729百万円

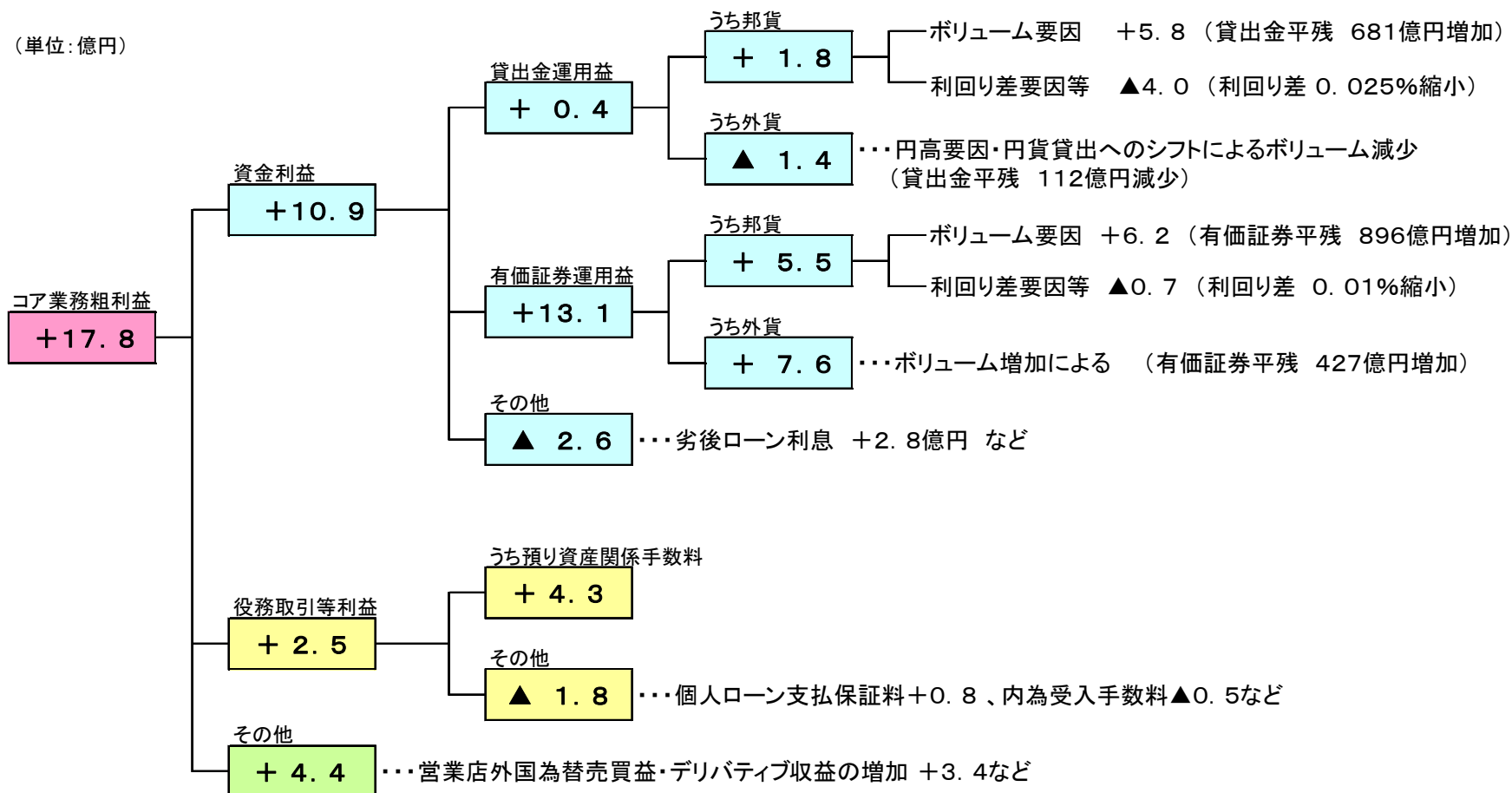
コア業務粗利益の増減要因(22年度上期)

- 資金利益は、貸出金・有価証券のボリューム増加により増益
- 役務利益・その他は、預り資産手数料や外国為替関係手数料の増加により増益

21年度上期比(22/上-21/上)

(注) 利回り差は預金等利回りとの差を使用

(単位: 億円)



預貸金・預り資産の状況

- 「**総預金等＋預り資産**」は、22年3月末に5兆円の大台を突破し、その後も**順調に増加**
- 経済環境が厳しいなか、「**総貸出金**」も、**前年同月末比で増加**（**事業性・個人融資とも増加**）

＜総預金等・預り資産残高推移＞

（単位：億円、百万円）

	21/9	22/3	22/9	21/9比 増加額	21/9比 増加率
総預金等	45,212	46,088	47,045	+1,833	+4.1%
うち個人預金	29,854	30,244	30,466	+612	+2.0%
預り資産	3,845	3,982	3,964	+119	+3.1%
投資信託	1,416	1,461	1,383	△33	△ 2.3%
保 険	567	696	854	+287	+50.6%
国 債	1,862	1,825	1,727	△135	△ 7.3%
総預金等＋預り資産	49,057	50,070	51,009	+1,952	+4.0%
預り資産販売額	182	465	313	+131	+72.0%
預り資産収益	704	1,654	1,120	+416	+59.1%

※単位は預り資産収益のみ百万円、その他は億円

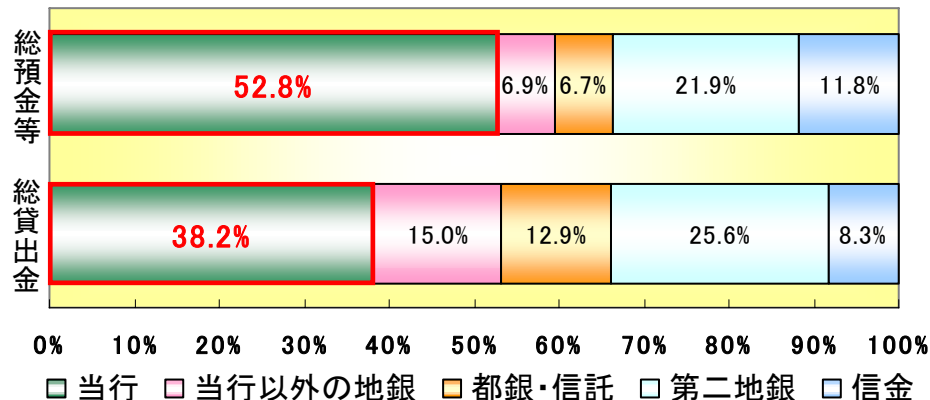
※上記の預り資産には、金融商品仲介業務(22/9末残高90億円)を含めていない

＜総貸出金残高推移＞

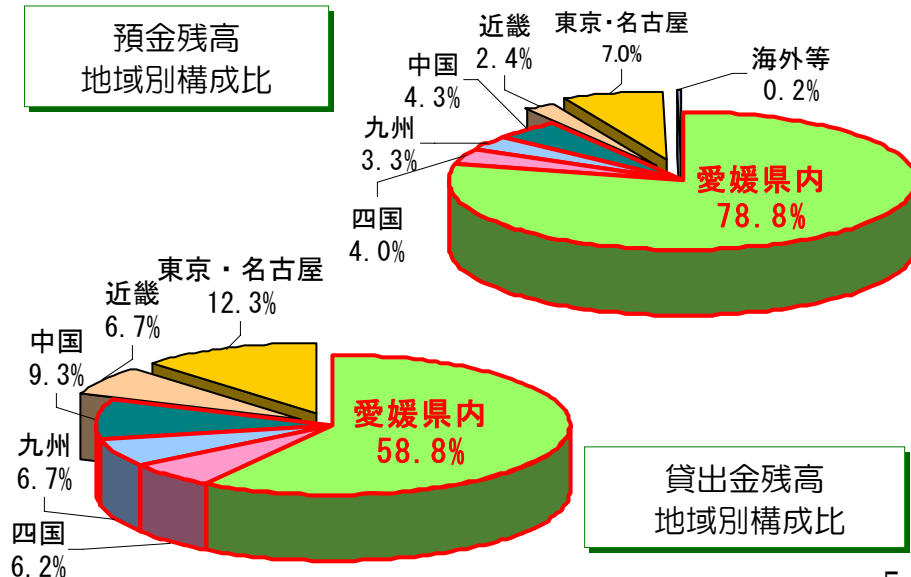
（単位：億円）

	21/9	22/3	22/9	21/9比 増加額	21/9比 増加率
総貸出金	33,721	34,221	34,210	+489	+1.5%
一般貸出金	32,414	32,797	32,684	+270	+0.8%
事業性貸出金	23,612	23,926	23,782	+170	+0.7%
うち愛媛県内	11,843	12,103	11,875	+32	+0.3%
うち県内船舶	3,634	3,884	3,824	+190	+5.2%
個人融資	8,802	8,871	8,903	+101	+1.1%
うち住宅ローン	6,297	6,375	6,409	+112	+1.8%

22年9月末愛媛県内シェア（除くゆうちょ・農協等）



預金残高 地域別構成比



信用コストおよび開示不良債権の状況

- 信用コストは、ランクダウン減少と引当率低下による一般貸倒引当金繰入額減少を主因に、前年同期比で大幅に減少
- 不良債権比率は2.30%と、引き続き低水準を維持

<要因別信用コスト推移>

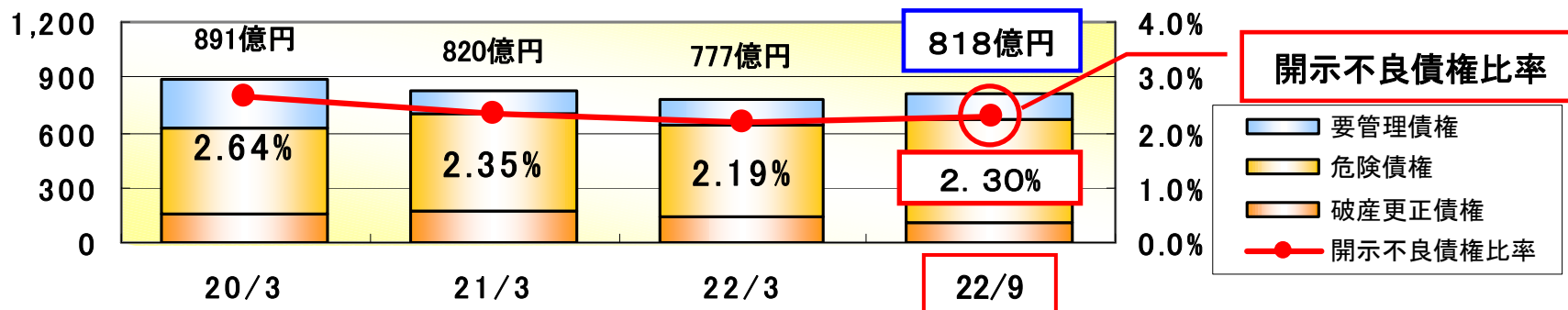
(億円、%)

	19/9	20/3	20/9	21/3	21/9	22/3	22/9	前年同期比
信用コスト合計	54	67	138	202	83	137	19	△ 64
倒産	15	40	46	134	16	42	11	△ 5
ランクダウン等	34	76	50	82	84	100	45	△ 39
ランクアップ・回収	△ 13	△ 56	△ 12	△ 27	△ 17	△ 26	△ 8	9
償却・売却等	1	3	3	4	3	6	11	8
一般貸倒引当金繰入額	17	4	51	9	△ 3	14	△ 40	△ 37
与信費用比率	0.34	0.21	0.84	0.61	0.49	0.40	0.11	△ 0.38p

(※端数処理のため、合計が一致しないことがある)

<金融再生法開示不良債権額・比率推移>

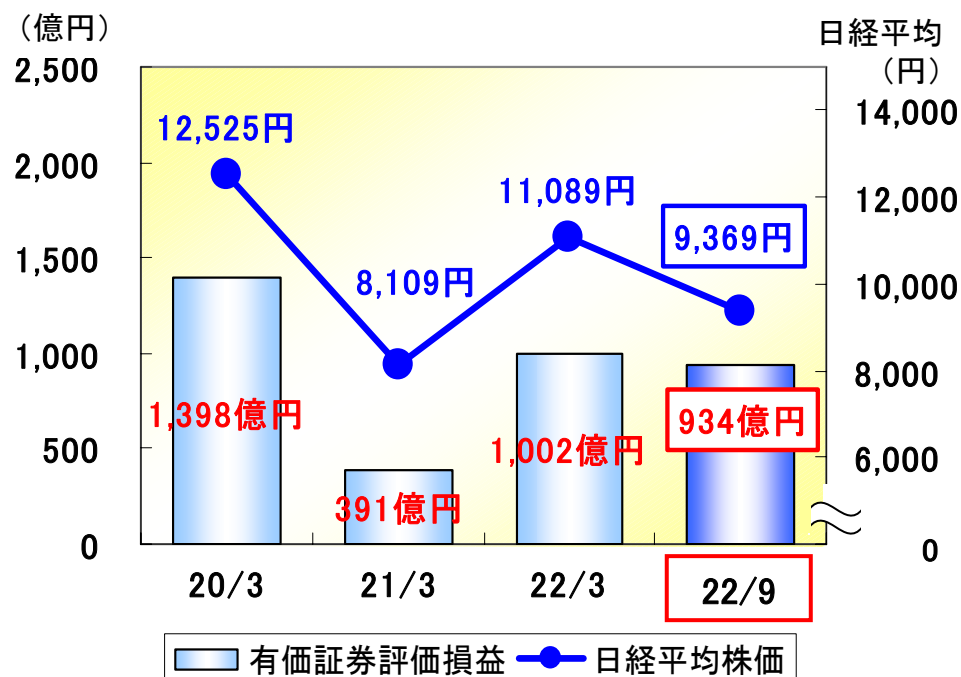
(億円)



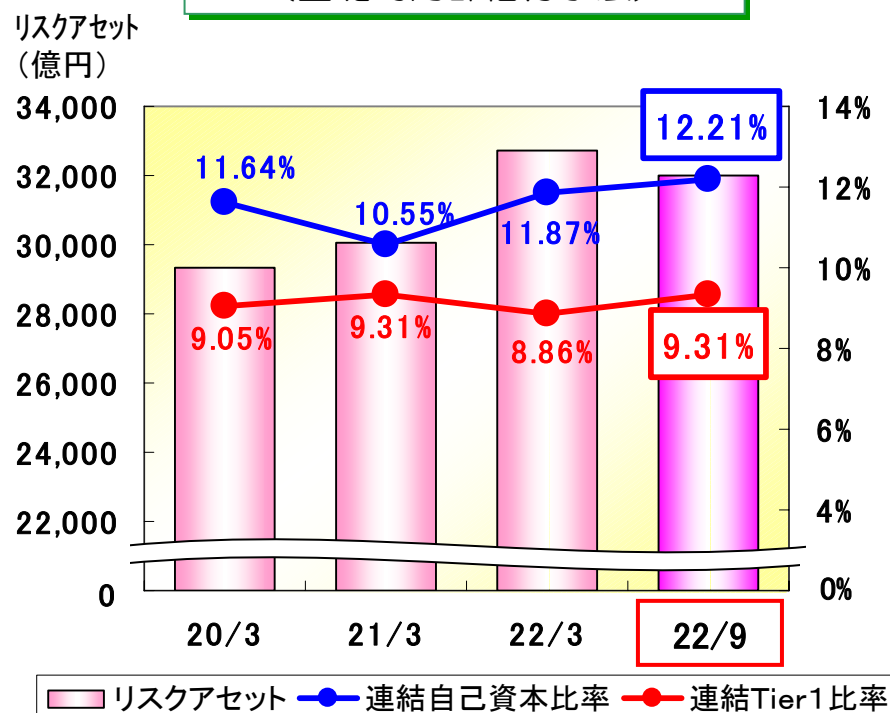
有価証券評価損益および自己資本比率の状況

- 有価証券評価益は934億円と、地銀トップクラスを維持
- 連結自己資本比率(国際統一基準)は、12.21%、連結Tier1比率は、9.31%

有価証券評価益(単体)の推移



連結自己資本比率の推移
(基礎的內部格付手法)



(22/3期に 劣後ローン370億円を導入)